

米国 NY連銀管轄地区製造業の緩やかな拡大を示唆
 (07年1月NY連銀製造業景気指数)
 発表日：2007年1月16日(火)
 ～設備投資見通しは高い水準～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

NY連銀製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	出荷	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	販売価格	週平均就業時間
06/05	27.91	23.93	27.11	4.75	-9.09	5.79	9.92	52.89	19.01	11.57
06/06	16.68	13.56	12.05	4.76	-12.84	4.59	0.92	50.46	16.51	5.50
06/07	14.11	19.06	16.83	7.06	-10.66	1.64	-1.64	44.26	14.75	13.93
06/08	15.40	15.37	21.05	13.28	-4.00	0.00	-3.00	41.00	16.00	23.00
06/09	15.40	15.37	21.05	13.28	-4.00	0.00	-3.00	41.00	16.00	23.00
06/10	21.19	12.94	22.91	20.06	2.50	-5.00	-3.33	30.83	17.50	14.17
06/11	25.00	21.10	26.96	23.85	3.77	4.72	0.00	34.90	16.98	10.38
06/12	22.19	22.52	27.60	18.60	-7.87	1.12	-14.61	28.09	13.48	7.87
07/01	9.13	10.26	16.11	6.91	-19.15	-5.32	-8.51	35.11	19.15	-1.06

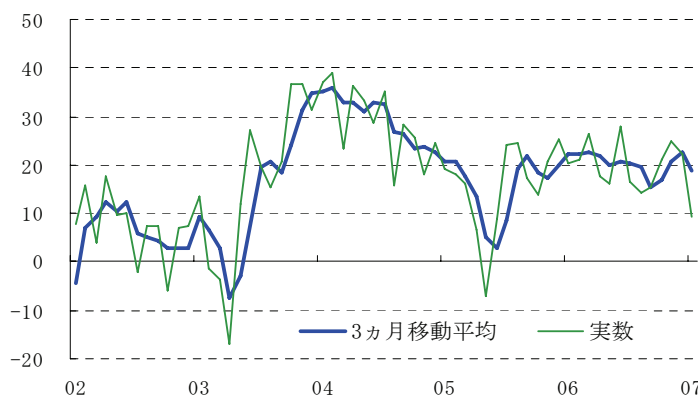
NY連銀製造業景気指数(6ヵ月先予測)の推移

	総合	新規受注	出荷	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	販売価格	週平均就業時間	設備投資
06/05	31.37	37.15	33.22	21.63	-4.88	-0.81	5.65	59.35	36.90	8.83	32.52
06/06	33.42	35.30	32.23	16.13	-2.50	-1.67	3.28	62.50	38.63	4.72	20.00
06/07	42.55	42.94	41.98	18.74	-11.93	-1.83	5.76	60.55	41.15	7.40	22.02
06/08	37.31	37.39	37.24	20.75	-2.46	-9.02	-0.33	54.92	39.52	6.51	26.23
06/09	35.89	40.40	42.73	19.58	-9.00	-9.00	3.33	52.00	32.88	8.12	36.00
06/10	32.20	35.45	33.37	24.94	-1.68	-4.20	8.54	39.50	23.04	10.29	30.25
06/11	36.75	40.25	43.55	22.38	-4.72	-2.83	11.69	45.28	24.43	8.31	31.13
06/12	41.85	44.62	40.73	30.37	13.48	3.37	9.23	47.19	25.44	11.66	39.33
07/01	32.54	34.14	28.47	31.12	2.13	-1.06	-8.50	45.74	22.39	12.39	31.91

前月比 13.06 ポイント低下

2007年1月のNY連銀製造業景気指数(NY連銀管轄地区の製造業の動向を示す)は+9.1と前月から13.06ポイント低下し、市場予想の19.3を下回った。新規受注、出荷、入荷遅延、出荷、雇用が低下した。ただし、この統計は月次での変動が大きいため3ヵ月移動平均でみる必要があり、それでは総合、新規受注ともに安定した拡大を示す水準を維持している。このため、同地区製造業部門は緩やかな拡大基調を維持していると判断される。

NY連銀製造業景気指数の推移



NY連銀製造業新規受注DIの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。

**1月の同地区生産
の拡大ペース鈍化
が見込まれる**

生産関連では、出荷が+16.11（前月+27.60）とプラス幅を縮小し在庫指数は▲19.15（同▲7.87）とマイナス幅を拡大させた。さらに、新規受注指数が+10.26（同+22.52）と低下したことから、NY連銀管轄地区の生産活動の鈍化が示唆されている。

雇用関連に関しては、雇用指数が+6.91（同+18.60）と低下し、週平均就業時間がマイナスに転じていることから、1月の同地区製造業雇用は小幅増加にとどまるとみられる。

企業収益では、仕入れ価格が+35.11（前月+28.09）とプラス幅が拡大した。一方で、販売価格のプラス幅も上昇したため、交易条件は小幅悪化にとどまった。引き続き企業のコスト削減圧力の強い状態が持続している。

**先行きに楽観的であ
り予想される生産の
鈍化も小幅なものに
とどまるとみられて
いる**

6ヵ月先予測では、総合指数は前月から低下したものの、高い水準を維持しており先行きに対して楽観的な見方を維持している。

生産では新規受注の「増加を見込んでいる割合」、出荷の「増加を見込んでいる割合」、受注残の「増加を見込んでいる割合」が低下していることから、今後も生産の拡大ペースが鈍化することを見込んでいる。

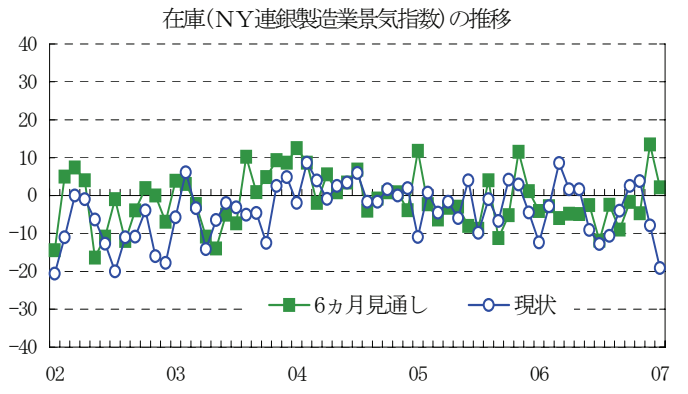
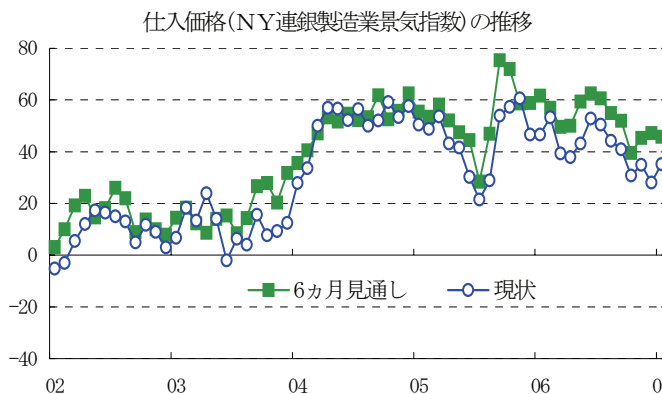
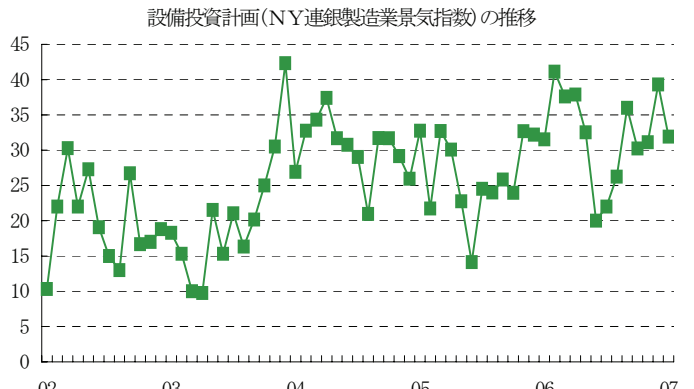
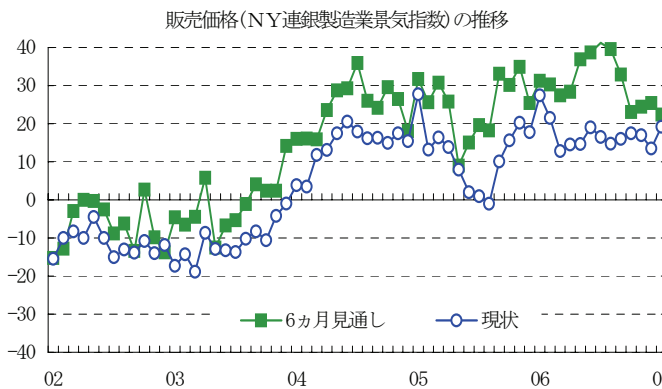
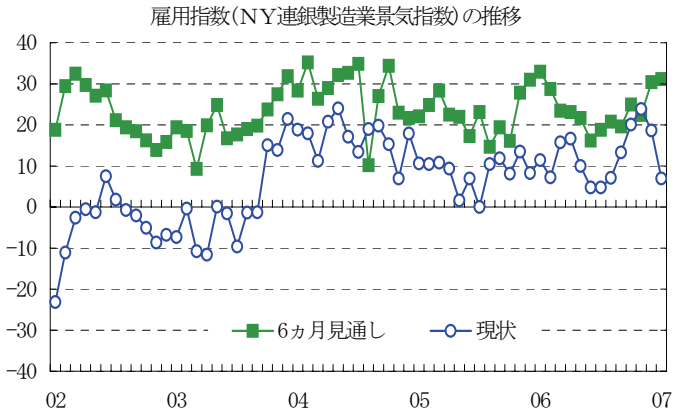
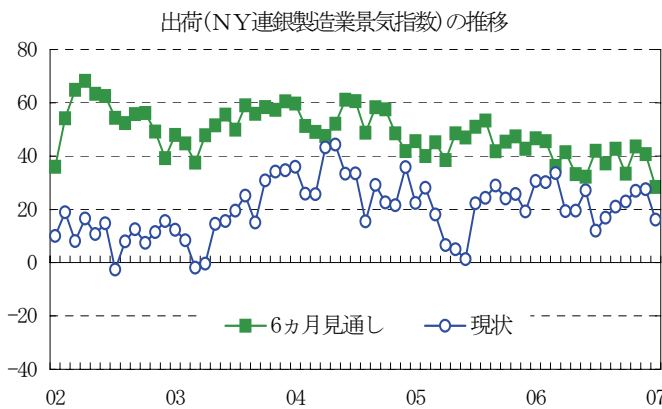
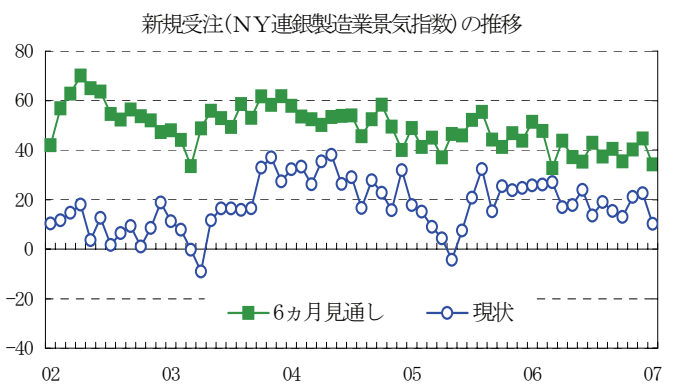
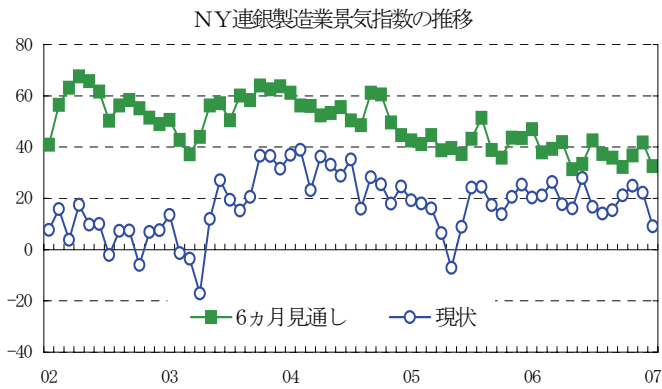
収益面では、「仕入れ価格の上昇を見込んでいる割合」の低下ペースが「販売価格の上昇を見込む割合」の低下ペースを上回っていることから先行き交易条件の悪化が予想されている。

このような中、在庫のプラス幅が低下したように、今後も在庫の積み増しに慎重な姿勢を維持するとみられる。一方で、現状判断ではマイナスに転じた「週平均就業時間の増加を見込んでいる割合」のプラス幅が上昇したうえに、「雇用者数の増加を見込んでいる割合」のプラス幅も拡大したことから、同地区製造業雇用が先行き拡大ペースを速める可能性がある。

以上のように、交易条件の改善が見込み難いもと、コスト削減を雇用よりも在庫の抑制で行うことを示唆しており、成長が持続し易い状況が続くと見込まれる。

**情報化投資を含む
設備投資の堅調持
続を示唆**

設備投資計画は31.91と前月の39.33から低下したものの高い水準となっていることから、2007年のNY連銀管轄地区製造業部門での設備投資は堅調さを維持する可能性が高い。ハイテク支出見通しは、高い水準を維持しており、今後も情報化投資が堅調さを維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。